

主語の前に位置する介詞構造 「在＋場所」の機能と意味

——中国語の《「在＋場所」＋主語＋述語》に存在する2種類の文型——

櫛 山 健 介

はじめに

中国語において、文頭に位置する介詞構造の中で、最も多様に使われるのが「在＋場所」だと考えられる。「在＋場所」が主語の前に位置する場合、文頭に位置するがために特別な機能が生じる。本稿では、文型《「在＋場所」＋主語＋述語》の文頭の介詞構造「在＋場所」の2種類の機能、つまり、「対比・限定機能」と「接続機能」について分析をおこなう。そして、文型《「在＋場所」＋主語＋述語》には、全く異なる2種類の文型（文型1と文型2）が存在していることを明らかにし、この2種類の文型の特徴について分析する。2種類の文型においては、「在＋場所」の意味、主語、述語において、顕著な対立点が存在する。

文型1および文型2の代表的な例文を下に挙げておく。

文型1：在故乡非洲，河马几乎日夜泡在河里，靠吃芦苇，水草过活。

（小7-31）

文型2：远远望去，在一座雄伟峻峭的半山腰里，游击队员们正穿过高大的树林和茂密的青纱帐，去和敌人斗争

（初中1-89）

第1章では、対比・限定機能について観察、分析を行い、文型1の「在+場所」の意味および主語と述語の特徴について考察する。そして、接続機能を「文章接続型」と「場面照応型」の2種類に分け、第2章においては、文章接続型について分析を行い、文型1と文型2という2種類の文型の存在を明らかにする。第3章においては、場面照応型について分析を行い、文型2の「在+場所」の意味および主語と述語の特徴について考察する。そして、第4章において、2種類の文型の特徴についてまとめる⁽¹⁾。

1. 対比・限定機能について

対比・限定機能には、「明確な対比型」「隠れた対比型」「限定（無対象）型」の3種類のタイプがある。第1節において、明確な対比型について、第2節において、隠れた対比型について、第3節において、限定（無対象）型について観察する。そして第4節において、対比・限定機能に使われる文型1の「在+場所（以下、Dと略称する）」の意味、及び文法的特徴について考察する。

1.1 明確な対比型

明確な対比型というのは、文型《「在+D」+主語+述語》が2カ所以上で使われ、対比される場所が「在+D」という形で明確に提示されている場合を指す。

次の例文は「はじめに」で挙げた文型1の代表的な例である。下線部の「在动物园里」と「在故乡非洲」が明確に対比されている。

(1-1) 河马不但嘴大，胃口也大。据说他的胃能容纳二百斤左右的食物。

在动物园里，因为不光喂草给它吃，也喂大麦，燕麦，小麦，胡萝卜等精料，所以每天的食粮可以减少到六，七十斤。在故乡非洲，河马几乎日夜泡在河里，靠吃芦苇，水草过活。

(小7-31)

次の例文では下線部の「在草堆后面」と「在这儿」が明確に対比されている。

- (1-2) 扬科已经进了食具间。他每走一步都非常小心，但是恐惧愈来愈紧地抓住了他。在草堆后面，他象在自己的家里一样自在，可是在这儿，他觉得自己好像是闯进了笼子的小动物。夜静得可怕，月光偏偏照在扬科身上。 (小10-6)

次の例文では下線部の「在学校里」「在家里」「在车上」の三つの場所が対比されていることが明確である。

- (1-3) 郁小蕾可真爱劳动。在学校里，他总是带头把教室，走廊打扫得干干净净。在家里，他常常帮妈妈洗菜，洗碗，自己用的手帕，穿的袜子，从不要别人洗。在车上，他见到老人或抱小孩的妇女就主动让坐。 (小8-22)

次の例文では下線部の「在“对党和人民无限忠诚的刘胡兰”这个偏正词组里」と「在“为革命壮烈牺牲”这个偏正词组里」が対比されていることが明確である。

- (1-4) 比如“对党和人民无限忠诚的刘胡兰为革命壮烈牺牲”这句话里，主语和谓语都是由扩张了的偏正词组构成的，在“对党和人民无限忠诚的刘胡兰”这个偏正词组里，“刘胡兰”是中心语，在“为革命壮烈牺牲”这个偏正词组里，“牺牲”是中心语。 (初中3-39)

上の例文で観察してきたように、明確な対比型というのは、対比される場所が文頭の「在＋D」により、明確に示されている。

1.2 隠れた対比型

隠れた対比型というのは、文型《「在＋D」＋主語＋述語》が使われるのは1カ所にすぎず、対比される場所が、「在＋D」という形で明確に示されず、それに変わる別の表現で示されている場合を指す。

次の例文では、下線部の「在水草多的地方」が対比の対象となっているが、「在水草多的地方」と対比される場所は「在＋D」という形で示されていない。

しかし後ろに使われている下線部の「等到缺乏食物的时候」が対比の対象となっていることは文脈から十分に読み取れる。

- (1-5) 骆驼背上有驼峰，在水草多的地方，他吃得饱饱的，喝得足足的，一部分养料变成脂肪藏在驼峰里。等到缺乏食物的时候，它就用自己的积蓄来维持生命。 (小8-86)

次の例文では、「在国内」と対比される場所は「在 + D」という形で示されていない。しかし前文で国外での評価，すなわちイタリア人のマルコポーロの評価が述べられており，下線部の「在国内」は，外国での評価と対比として使われているのである。

- (1-6) 早在十三世纪，芦沟桥就闻名世界。那时候有个意大利人马可・波罗来过中国，他的游记里，十分推崇这座桥，说它“是世界上独一无二的”，并且特别欣赏桥栏上刻的狮子，说它们“共同构成美丽的奇观”。在国内，这座桥也是历来为人们所称赞的。它地处入都要道，而且建筑优美，“芦沟晓月”很早就成为北京的胜景之一。 (初3-87)

次の例文では、「在那万恶的旧社会」と対比される場所は「在 + D」という形で示されていない。しかし，前の文章で，現在の上海の状況が述べられている。「在那万恶的旧社会」は，現在の上海の状況と対比して使われているのである。

- (1-7) 上海的肇嘉浜路，是一条又美丽又整洁的林荫大道。路面平坦宽阔，中间绿树成荫，花开四季。满载货物的大卡车，在大道上日夜奔驰。大道两旁，一家家工场机声隆隆，一排排工房宽敞明亮。清晨，傍晚，路心花园吸引着退休老人，快乐的孩子……花木丛中，一片欢声笑语，好一派生气勃勃的景象。可是，在那万恶的旧社会，这里却是一条臭水浜。浜里的水黑得象柏油，水面上漂浮着死猫，死狗，终年散发着臭气。

(小8-101)

次の例文では、「在春天的北京」と使われているが，それと対比される場所

は「在＋D」という形では示されていない。しかし、前の文章で、パリの公園について述べられており、「在春天的北京」は、パリと対比して使われているのである。

(1-8) 巴黎有许多街道公园。离我们的公寓不远就有一座。

一个假日，我夹着一本书来到这个小公园，坐在几堆花丛中间的长椅上。这是我最爱的长椅，因为我喜欢那几丛花，在春天的北京，这样的花是经常见到的。

我翻了几页书，忽然听到一个孩子的声音：“先生，你是中国人？
是吗？” (小9-115)

上の例文で観察したように、隠れた対比型においては、「在＋D」は1カ所で使われ、それと対比される場所は前後の文脈の中で説明されているのである。

1.3 限定（無対象）型

限定（無対象）型というのは、同じ文章の中で対比される場所が全く提示されていない場合をさす。この場合は、場所を限定或いは制限していることが明瞭である⁽²⁾。しかし、暗に、限定した場所以外の場所が比較されているとも理解できる。

次の例文では「在整个八路军医务系统中」と使われているが、対比の対象は全く示されていない。場所を明確に限定している。しかし、暗に「整个八路军医务系统中」以外の場所が比較されているとも理解できる。

(1-9) 白求恩同志是个医生，他以医疗为职业，对技术精益求精；在整个八路军医务系统中，他的医术是很高明的。这对于一班见异思迁的人，对于一班鄙薄技术工作以为不足道，也是一个极好的教训。

(初中1-123)

次の例文では、「在所有共产党员的心目中」と使われているが、対比の対象

は存在していない。場所（抽象的な場所）に限定して述べていることが明らかである。

- (1-10) 鲁迅先生不是中国共产党人，可是在所有共产党员的心目中，他永远是一个能以生命相托付的，最可信任的同志。（初中1-53）

次の例文では、「在阳光下」と対比する場所は、同じ文章の中で提示されていない。場所（空間）を限定して述べていることが明らかである。しかし、暗に「阳光下」以外の場所と比較されているとも理解できる。

- (1-11) 叶子就是一个食品工厂。叶子上面有着许多气孔。在阳光下，这些气孔一面排出氧气和蒸腾水分，一面还吸入大量的二氧化碳。有时，一个气孔在一秒钟内能吸进二万五千万个氧化碳分子。（初3-105）

次の例文では「在议论文里」と使われているが、対比の対象は存在しない。場所を限定して述べていることが明らかである

- (1-12) 在议论文里，阐明或反驳论点，往往需要举出一些事实作为依据；有时候讲很多道理，不如举一两个事例更能说服人。因此，有的议论文较多地根据事实进行论证。（初中5-88）

次の例文では「在戈壁滩上」が二カ所で使われているが、二つの「在戈壁滩上」が対比されているわけではない。場所を「在戈壁滩上」に限定しており、「在戈壁滩上」を二カ所で使うことにより、限定した場所を際立たせていると理解できる。

- (1-13) 在戈壁滩上，大伙儿忘不了那富有风趣的狩猎生活。这儿是一座天然的大动物园，也是一个天然的大肉库。在戈壁滩上，珍禽异兽无奇不有，小至野兔，猓猓，大至野牛。有珍贵的野马，香麝，也有出名的雪鸡，天鹅……动物之多，种类之繁，无庸多说。（小10-52）

以上、限定（無対象）型について観察してきた。限定（無対象）型においては、文型《「在 + D」 + 主語 + 述語》が使われているが、それと対比される場所が「在 + D」という型で明示されていないし、また、前後の文脈で対比され

る内容も説明されていないのである。

1.4 「在＋D」の意味と文法的特徴について

対比・限定機能において使用されている文型《「在＋D」＋主語＋述語》の3種類のタイプについて、観察してきたが、本節では「在＋場所」の意味、主語と述語の特徴について考察する。

1.4.1 「在＋D」の意味について

文頭の「在＋D」が対比を表している場合の意味について検討してみよう。

次の例文は、1.1で挙げた例文(1-3)である。この例文においては、「在学校里」,「在家里」,「在车上」の三つの「在＋D」が使われているが、三つの「在＋D」の意味が、特定の場所を指すのか、不特定の場所を指すのか検討してみよう。「在学校里」の中には、特定の場所を示す言葉は使われていない。しかし、文章の内容から考えると、「郁小蕾」が通っている学校、つまり特定の学校を指しているといえよう。「在家里」もやはり特定の場所を示す言葉はないが、文章の内容から考えると彼女の家を指しており、やはり特定の家といえるであろう。しかし、最後の「在车上」は特定の場所をさす言葉が無いうえに、文章の内容から考えても、どのバスともいえず、不特定のバスとしか言いようがないであろう。

(1-3') 郁小蕾可真爱劳动。在学校里，他总是带头把教室，走廊打扫得干干净净。在家里，他常常帮妈妈洗菜，洗碗，自己用的手帕，穿的袜子，从不要别人洗。在车上，他见到老人或抱小孩的妇女就主动让坐。

(小8-22)

次の例文で、「在水草多的地方」は、特定の場所ではなく、明らかに不特定の場所である。

(1-5') 骆驼背上有驼峰，在水草多的地方，他吃得饱饱的，喝得足足的，一部分养料变成脂肪藏在驼峰里。等到缺乏食物的时候，它就用自己的

积蓄来维持生命。

(小8-86)

以上の分析から、対比・限定機能を表す場合、文頭の「在+D」は非特定であり、特定、不特定を問わず使われると考える。そして、「在+D」のDには、具体的な場所のみならず、上に挙げた例文(1-11)の「在阳光下」のように、空間を提示することができるし、また、例文(1-9)の「在整个八路军医务系统中」、および例文(1-10)の「在所有共产党员的心目中」のように、抽象的な場所も提示することもできる。

対比・限定機能における「在+D」の意味は、場所(空間、抽象的な場所を含む)を限定・制限することにある。明確な対比では、二つ(或いは二つ以上)の場所を限定して提示している。二つの場所を限定して提示しているが故に、読み手には明確な対比として理解されるのである。隠れた対比の場合は、文脈の中で対比する一方について述べ、さらに他方の範囲を限定して述べることによって、暗に両者を対比していることが読み手にも伝わってくるのである。

限定(無対象)型のように、対比される対象が無くても文が成立するのは、文型1の「在+D」自身に場所を限定する意味があるからなのだと考える。対比・限定型の本質は「場所(空間、抽象的な場所)を限定・制限する」ところにある。

1.4.2 文法的特徴について

文型1の文法的特徴については、「在+D」の後の主述構造に特徴がある。特に、述語の形態には顕著な特徴がある。収集した例文からは五つの特徴が伺える。

- ① 動作動詞が使われている場合は、次の例文にも見られるように、「总是」「常常」等が使われていたり、「吃得饱饱的，喝得足足的」というように、日常の状態や性質を表している。

(1-1') 在故乡非洲，河马几乎日夜泡在河里，靠吃芦苇，水草过活。

(1-3') 在学校里，他总是带头把教室，走廊打扫得干干净净。在家里，他常

常帮妈妈洗菜，洗碗，自己用的手帕，穿的袜子，从不要别人洗。

(1-5') 在水草多的地方，他吃得饱饱的，喝得足足的，一部分养料变成脂肪藏在驼峰里。

- ② 動作動詞が使われていない場合は、次の例文にも見られるように、判断詞の「是」、助動詞、可能補語などが使われている。これらの場合は、どのような状態なのか、或いはどのような性質なのかを説明したり、あるいは判断をしていると考えられる。

(1-7') 可是，在那万恶的旧社会，这里却是一条臭水浜。

(1-12') 在议论文里，阐明或反驳论点，往往需要举出一些事实作为依据；

(1-13') 在戈壁滩上，大伙儿忘不了那富有风趣的狩猎生活。

- ③ 一回限りの動作を表す動詞は使われていない。
 ④ 変化を表す述語は使われていない。
 ⑤ 剥き出しの動作動詞は使われていない。

述語の特徴について5点を指摘したが、③④は、後の第3章で考察する文型2の述語の特徴である。文型2において使用される一回限りの動作を表す動詞、変化を表す述語は文型1においては使われない。文型1における述語は、状態や性質の説明・判断を述べていると思われる。⑤のように剥き出しの動作動詞が使用されないのは、次の作例に見られるように、状態や性質の判断がつかないからだと考えられる。

[1-1] ?? 在学校里，他睡觉。

しかし、このような文も、次の作例 [1-2] のように「每天」を加えることにより動作の状態性を強めたり、作例 [1-3] のように「不能」を加えることにより状態や性質に対する話し手の判断を強めたりすると適格な文になる。

[1-2] 在学校里，他每天睡觉。

[1-3] 在学校里，他不能睡觉。

これに対して、主語は、状態や性質の説明・判断を述べる対象だと考えられ

る。第3章において、文型2の主語の特徴について分析するが、文型2の主語の特徴は、動作や変化の主体者なのである。

文型1は、場所（範囲）を限定して提示し、その場所において、主語はどのような状態なのか或いはどのような性質なのかを説明したり、判断をしたりする場合に使われるのである。

2. 文章接続型について

文頭の介詞構造「在＋D」には、2種類の接続関係が存在する。一つは前文と文章上の直接的な接続関係を持つ場合で、本稿では、「文章接続型」と呼ぶ。もう一つは、前文との直接的な接続関係が認められず、場面と関係していると考えられる場合で、本稿では「場面照応型」と呼ぶ。文章接続型には、文型1と文型2の両方が使用されている。場面照応型で使用されているのは文型2である。文脈におけるあらゆる関係を広義の接続関係と考え、両者を含めて接続機能とした。

本章においては、文章接続型について分析をおこなう。文章接続型には、上で述べたように文型1と文型2の両者が存在する。第1節で、文型1が使われている場合、第2節で、文型2が使われている場合を観察する。

2.1 文型1が使われている場合

文型1の「在＋D」は、1.4.1で述べたように、特定の場所を指す場合と不特定の場所を指す場合がある。「在＋D」が特定の場所を指す場合に接続機能が生まれると考えられる。以下の例文では、「在＋D」に指示代名詞が使われており前文にある特定の場所を指している。この特定の場所を指す「在＋D」が、前文との接続機能を果していると考えられるのである。また、これらの例文では、「在＋D」の後ろの主述構造の特徴、つまり1.4.2で述べたように、述語は、状態や性質を述べていること、そして主語は、状態や性質の説明・判断

を述べる対象であることから、文型1が使われていることが理解できる。

次の例文の「在＋D」には、指示代名詞が使われており、前文で述べられている特定の場所を指している。「在这运动中」は、場所を限定すると同時に、前の文との接続的な役割も果たしている。述語には、助動詞が使われており、主語の性質を説明している。

- (2-1) 所有的星星和恒星系全都在飞快地运动着。太阳也带着地球和其他行星以每秒十九公里的速度飞奔。同时，太阳系也参加银河系统的自转运动。在这运动中，太阳系每秒钟要走二百五十公里。（初中3-103）

次の例文で、「在这个问题上」は、前文で述べられている特定の場所を指している。場所を限定すると同時に、前文との接続的な役割も果たしている。述語には「是～的」という構文が使われ、主語に対する判断を述べている。

- (2-2) 因此，学术研究工作者也必须抱歉虚，谨慎，严肃，认真的态度。首先要承认自己知识不够，才能去探索，研究这未知的领域，并且要下定决心，不怕失败，要从不断失败中丰富知识，把未知的领域逐步缩小，从而提高学术研究的水平。在这个问题上，采取自满的态度也是不行的。（初中5-46）

次の例文で、「在这首诗中」は、前文で述べられている特定の場所を指している。場所を限定すると同時に、前の文との接続的な役割も果たしている。主語は、主語の状態あるいは性質を説明している。

- (2-3) 有的诗不是一韵到底，诗中有时换韵，但每节诗却是押韵的，如郭沫的《天上的街市》。在这首诗中，星，灯，市，奇，广，往，游，走，四组字分别押韵。（初中3-166）

以上、文章接続型において文型1が使われている例を観察したが、これらの例文においては、主語と述語の特徴から、文型1が使われていることが読み取れるのである。

2.2 文型2が使われている場合

文章接続型には、文型1以外の文型も使われている。文型1以外の文型を文型2と呼ぶ。文章接続型で使われる文型2には、三つの特徴がある。①「在+D」は、特定の場所を示していること。②述語には、一回限りの動作動詞が使われていること。③主語は動作の主体者であること。これらの特徴は、第1章で分析した文型1の特徴とは、明らかに異なるのである。

次の例文では、「在+D」に指示代名詞が使われており、特定の場所を指している。「在这里」は、場所を強調すると同時に前文との接続性を強めている。述語には一回限りの動作動詞が使われており、主語は動作の主体者であることが明白である。文型1とは明らかに異なった特徴を有しているのである。

- (2-4) 放暑假了，妈妈带我来到姥姥家。在这里，我第一次看到了欢蹦乱跳的小青蛙。心里不由得暗想：要是能捉到一只玩玩，那该多有意思阿！
(小10-73)

つぎの例文では、「在那里」は、特定の場所を指し、場所を強調すると同時に、前文との接続性を強めている。述語には一回限りの動詞が使われており、主語は動作の主体者である。

- (2-5) 卢沟桥在我国人民反抗帝国主义侵略战争的历史上，也是值得纪念的。在那里，一九三七年日本帝国主义发动了对我国的侵略战争。全国人民在中国共产党领导下英勇抗战，终于彻底打败了日本帝国主义。
(初中3-87)

つぎの例文で、「在这幅浮雕上」は、特定の場所を指し、場所を強調すると同時に、前文との接続性を強めている。述語は一回限りの動詞が使われており、主語は動作の主体者である。

- (2-6) 东面的第二幅浮雕，描写一八五一年太平天国的“金田起义”。太平天国是中国民主主义革命的序幕，它提出政治，经济，民族，男女四大平等的口号，严重地动摇了清朝封建统治的基础。在这幅浮雕上，一

群拿着大刀，梭镖，锄头，扛着土炮起义的汉族壮族人民的儿女，正从山坡冲下来，革命的旌旗在迎风飘扬。（初中1-87）

次の例文では、「在＋D」には、指示代名詞の代わりに、前文で使われた場所を指す言葉が使われている。「在议论中」は、前文で述べられている特定の場所を指し、前文で述べた場所を強調すると同時に、前文との接続性を強めている。動詞は一回限りの動詞であり、主語は動作の主体者である。

- (2-7) 主要内容抓住了，就要进一步仔细看看，关于花生好处的一番议论是怎样引起的；在议论中大家都讲了花生的好处，其中谁的话是主要的。
(小学11-7)

以上、文章接続型において文型2が使われている例を観察した。これらの例文においては、文頭の「在＋D」が特定の場所を示し、この特定の場所を示す文頭の「在＋D」が接続機能の役割を果たしているのである。しかし、主語は動作の主体者であり、述語には一回限りの動詞が使われている。文型1の主語と述語の特徴とは明らかに異なっているのである。このような特徴をもつ文型《「在＋D」＋主語＋述語》を文型2と考える。

文章接続機能には、2種類の異なった文型（文型1と文型2）が存在するのである。文型2については、次の第3章において詳しく分析する。

3. 場面照応型について

場面照応型というのは、文型《「在＋D」＋主語＋述語》の「在＋D」と前の文章との間に、直接的な接続関係が認められず、眼前の場面と関係していると考えられる場合を指す。場面照応という言葉は、中国語言語学でこれまで使われているわけではない。しかし、眼前の場面描写と関係している文型2の特徴を表す概念として本稿では使用することにした。場面照応型を2種類に分け、第1節で場面直接型について、第2節で場面間接型について観察する。

3.1 場面直接型（眼前の場면을直接指している場合）

映画や絵などで場面が設定されている場合、その場面（場所）を「在＋D」によって直接指し示すことができる。このような場合を、本稿では場面直接型と呼ぶ。場面直接型の場合、「在＋D」は、映画や絵など実際に存在する場所を指しており、話し手にとって特定の場所である。以下の例文では、述語は一回限りの動詞が使われており、主語は動作の主体者である。

次の例文は、絵を見ながら文章を練習する子供向けの学習帳である。絵にある場所を「在教室里」と指し示している。述語は1回限りの動詞であり、主語は動作の主体者である。

(3-1) 在教室里，一位叔叔踩在梯子上，仰着头，正在给我们按日光灯。

这样我们的教室光线就更好了。 (看图作文-4)

次の例文も、子供向けの学習練習帳である。絵にある場所を指して「在林场里」と使っている。述語は1回限りの動詞であり、主語は動作の主体者である。

(3-2) 在林场里，一天上午，两位叔叔正在伐树。嘿，这里一棵棵大树长得又粗又高！要是用斧头砍，用手锯来，那可太慢了。这两位叔叔真有本事，一个人看着方向另一个手握电锯。 (看图作文-31)

次の例文は、小学校の教科書のある課の本文の後ろにある「阅读指导」の一部の文章であるが、「在课文中」というのは、この課の本文を指している。絵ではないが、直前に実際に存在する文章を指しているのである。述語は1回限りの動詞であり、主語は動作の主体者である。

(3-3) 言行和心理

(阅读指导)

——省略（筆者）——

在课文中，作者还多处直接写了江姐的语言，通过这些语言，展现了江姐的内心世界。 (小11-81)

次の例文は、映画の脚本の一部で、映画の連続するいくつかの場면을「在＋

D」によって連続して指し示している。述語には、すべて1回限りの動詞が使われており、主語もすべて動作の主体者である。

(3-4) 在课堂上，董存瑞，郅振标正在听指导员讲政治课，他们时而记着笔记。

在操场上，他二人和全连一齐在练习瞄准，赵连长纠正着动作。

在操场上，他二人和全连一起在学习劈刺。

在野外，他二人投出了手榴弹。

在野外，赵连长令旗一扬，他二人象猛虎一样挟着炸药包冲了上去。

(『董存瑞』 电2-384)

以上観察したように、眼前に存在する場所は、「在＋D」を使いその場所を提示することが可能である。そしてこの使い方は、場所を提示しているというよりも、場面を提示しているというほうが実際的だと考える。後の第3節で分析するが、文型2に使われる「在＋D」は、場所や場面のみならず、空間も提示することができるのである。

3.2 場面間接型（文脈で設定された場面と関連する場所を指し示す場合）

脚本や絵本などと異なり、実際の文章の中では、場所や場面が文章により一定程度提示されている場合が一般的である。話し手がある場面を見ていたり、ある場面を想像したりして、先ずその場面を描写し、そして、それらの場面の一部の場所、またはその場面と関連する場所を「在＋D」により指し示す場合に使われる。

次の例文は、「はじめに」で挙げた文型2の代表的な例である。この例文では、前文で眼前の「浮雕」上の情景を説明している。そして、「浮雕」という場面の中のある場所を指して、「在一座雄伟峻峭的半山腰里」と使っている。しかし、前文の説明と「在一座雄伟峻峭的半山腰里」の間には文章上の結びつきを示す言葉はない。話し手は眼前の場面の一部を指しているのである。

- (3-5) 紧接着的一幅是“抗日敌后游击战”，浮雕上显现出抗日战争时期太行山区敌后游击战的场面。远远望去，在一座雄伟峻峭的半山腰里，游击队员们正穿过高大的树林和茂密的青纱帐，去和敌人斗争。

(初中1-89)

次の例文では、「在花坛边」と使われているが、前文には「花坛」という言葉はない。書き手は、前文で「校园」を提示し花や木を観察した情景を描写している。これが事実上場面を提示したことになり、眼前の一部の場所を指して「在花坛边」と使っているのである。

- (3-6) 到了学校，老师带我们到校园里观察雾中的花草树木。在花坛边，我们看到花朵上，叶子上都沾满了小水珠，就象穿了一身水晶衣，美丽极了。

(小5-107)

次の例文では、前文で「十几只狮子」が集まっている場面が描写されており、その場面の一部の場所を指して「在一只鬃毛长得最漂亮的雄狮旁」と使っている。

- (3-7) 只见不远处一棵大树下聚集着十几只狮子，一只母狮在打哈欠伸懒腰，它满不在乎地瞥了我们几眼，便合上眼皮躺下了。在一只鬃毛长得最漂亮的雄狮旁，好几只幼狮高采烈地打滚，玩闹着。人们把狮子称为“百兽之王”，要一下子看到这么多狮子，机会是颇不易得的。

(小11-25)

次の例文では、前文で「它看见大一些的飞虫落在墙上」と場所が設定されており、それと関連する一部の場所をさして、「在距离尺把远的地方」と使われている。

- (3-8) 有时候壁虎的头灵活地转动着，朝四处看，它看见大一些的飞虫落在墙上，就用最快的速度爬过去。在距离尺把远的地方，壁虎忽然停下来，然后极慢极慢地向前爬，不仔细看，根本看不出它在移动。

(小7-28)

次の例文では、前文で「船平静地在水面移动」と場面が設定されており、その中の一部の場所を指し、「在一个地方」と使われている。

- (3-9) 河面很宽，白茫茫的水上没有一点波浪。船平静地在水面移动。三支桨有规律地在水里划，那声音就象一曲音乐。

在一个地方，河面变窄了。一簇簇树叶伸到水面上来。树叶真绿得可爱。那是许多株茂盛的榕树，我看不出主干都在什么地方。

(小10-14)

次の例文では、前文で「茅屋里点着一只蜡烛」と場面が設定されており、それと関連する場所を示し、「在微弱的灯光下」と使っている。

- (3-10) 贝多芬听到这里，就推开门，轻轻地走了进去，茅屋里点着一只蜡烛。在微弱的灯光下，男的正在做皮鞋。窗前有架旧钢琴，前面坐着个十六七岁的姑娘，脸很清秀，可是眼睛瞎了。

(小10-9)

以上、場面照応型について観察したが、文型2は、眼前の場面描写と関係していることが明らかであろう。場面照応という言葉は、中国語言語学でこれまで使われているわけではないが、眼前の場面描写と関係している文型2の特徴を表す概念として本稿では使用した。

3.3 「在+D」の意味と文法的特徴について

本節では、場面照応型において使用される文型《「在+D」+主語+述語》、つまり文型2の「在+D」の意味、主語と述語の特徴について分析する。

3.3.1 「在+D」の意味について

「在+D」の意味について、三つの問題を検討する。①「在+D」は特定の場所を示すこと。②場所というのは単なる場所ではなく、場面や空間も含むこと。③「在+D」のDの内容についてである。

- ①「在+D」は、文章接続型においては、前文中の場所を指しており常に特定の場所を指している。場面照応型というのは、眼前の場面にある場所を示

している場合であり、やはり常に特定の場所を指しているといえる。

一般的に不特定を指すと考えられる「数量詞＋名詞」も、場面照応型においては特定の場所を指す。次の例文（3-9'）においては「在一个地方，河面变窄了。」と使われているが、この「在一个地方」は、前文で説明されている場面と関連する一部の場所を指しており、特定の場所を指していることは文脈からして明らかである。

（3-9'） 河面很宽，白茫茫的水上没有一点波浪。船平静地在水面移动。三支桨有规律地在水里划，那声音就象一曲音乐。

在一个地方，河面变窄了。一簇簇树叶伸到水面上来。树叶真绿得可爱。那是许多株茂盛的榕树，我看不出主干都在什么地方。

（小10-14）

次の作例中の「在一张桌子的下面」というのは不特定の机を指しているのではなく、教室の中に存在するある特定の一つの机を指しているのである。

〔2-1〕 教室里有十张桌子。在一张桌子的下面，他发现了一个小孩子。

② 「在＋D」のDというのは単なる場所のみならず、場面や空間も含む。上で述べたように、場面照応型では、話し手の眼前というのは、場所のみならず、場面が強く意識されている。次の例文は、空間、雰囲気指している例である。

（3-11） 这以后的路，卢进勇走得特别快。天黑的时候，他追上了后卫部队。
在无边的暗夜里，一簇簇的篝火烧起来了。（初中3-9）

（3-12） 当我以二十比十九领先一个球的时候，姐姐大概是急着追成二十平，猛然抽了一板。我正担心对付不了，球却弹着网子，出界了。在一阵热烈的掌声中，我们的决赛结束了。（小8-35）

③ 「在＋D」のDの内容についてであるが、第3章2節の場面間接型の多くの例文において、文脈で設定された場面の一部に焦点を絞るような強さが感じられる。次の例文では、「在一座雄伟峻峭的半山腰里」に焦点を絞るよう

な強さが感じられる。

- (3-5') 紧接着的一幅是“抗日敌后游击战”，浮雕上显现出抗日战争时期太行山区敌后游击战的场面。远远望去，在一座雄伟峻峭的半山腰里，游击队员们正穿过高大的树林和茂密的青纱帐，去和敌人斗争。

(初中1-89)

また、次の例文では「在一只鬃毛长得最漂亮的雄狮旁」に焦点を絞るような強さが感じられる。

- (3-7') 只见不远处一棵大树下聚集着十几只狮子，一只母狮在打哈欠伸懒腰，它满不在乎地瞥了我们几眼，便合上眼皮躺下了。在一只鬃毛长得最漂亮的雄狮旁，好几只幼狮高采烈地打滚，玩闹着。人们把狮子称为“百兽之王”，要一下子看到这么多狮子，机会是颇不易得的。

(小11-25)

このような現象は、「在＋D」のDが「新たな場所」を提示している時に起こる現象だと考えられる。上の例文(3-5')(3-7')において、「在＋D」のDには、前文にない新たな場所が提示されており、焦点を絞るような強さが感じられる。

一方、次の例文(2-4')(2-6')は、2.2の文章接統型において挙げた例文であるが、「在＋D」のDは、存在する場所を示しているだけで、新たな場所は提示されていない。上の例文に見られるような焦点を絞る強さは感じられないのである。下の例文においては、新たな場所は提示されていないからである。

- (2-4') 放暑假了，妈妈带我来到姥姥家。在这里，我第一次看到了欢蹦乱跳的小青蛙。心里不由得暗想：要是能捉到一只玩玩，那该多意思阿！

(小10-73)

- (2-6') 东面的第二幅浮雕，描写一八五一年太平天国的“金田起义”。太平天国是中国民主主义革命的序幕，它提出政治，经济，民族，男女四大平等的口号，严重地动摇了清朝封建统治的基础。在这幅浮雕上，一

群拿着大刀，梭镖，锄头，扛着土炮起义的汉族壮族人民的儿女，正从山坡冲下来，革命的旗帜在迎风飘扬。（初中1-87）

3.3.2 文型2の述語の特徴について

文型2の述語には、以下の特徴が観察できる。

- ① 動作の完了，動作の継続等を表し，一回限りの動作動詞が使われている。

(3-4') 在课堂上，董存瑞，邓振标正在听指导员讲政治课，他们时而记着笔记。

在操场上，他二人和全连一齐在练习瞄准，赵连长纠正着动作。

在操场上，他二人和全连一起在学习劈刺。

在野外，他二人投出了手榴弹。

在野外，赵连长令旗一扬，他二人象猛虎一样挟着炸药包冲了上去。

（『董存瑞』电2-384）

(3-5') 远远望去，在一座雄伟峻峭的半山腰里，游击队员们正穿过高大的树林和茂密的青纱帐，去和敌人斗争。（初1-89）

(3-6') 在花坛边，我们看到花朵上，叶子上都沾满了小水珠，就象穿了一身水衣，美丽极了。（小5-107）

(3-7') 在一只鬃毛长得最漂亮的雄狮旁，好几只幼狮高采烈地打滚，玩闹着。（小11-25）

- ② 動作動詞が使われていない場合は，変化を表す述語が使われている。

(3-9') 在一个地方，河面变窄了。

(3-11') 在无边的暗夜里，一簇簇的篝火烧起来了。

(3-12') 在一阵热烈的掌声中，我们的决赛结束了。

- ③ 日常的な動作を表す述語は使われていない。

- ④ 判断詞の「是」，助動詞，可能補語などは使われていない。

- ⑤ 剥き出しの動詞は使われていない。

③④は，対比・限定機能で述べた文型1の特徴である。⑤は文型1と文型2

に共通する特徴である。次の作例 [3-3] では、剥き出しの動作動詞が使われており、不適格な文である。しかし、次の作例 [3-4] [3-5] のように、完了や進行形にし述部に工夫が加わると適格な文となる。

[3-3] 在教室的讲台前面，小王唱歌。

[3-4] ?? 在教室的讲台前面，小王给大家唱了一首歌。

[3-5] 在教室的讲台前面，小王兴高采烈地唱着歌。

3.3.3 文型2の主語の特徴について

文型2の主語については、述語が一回限りの動作または変化を表していることからして、動作および変化の主体者だと考えられる。しかも、これら主体者は、単なる主体者ではなくて、話し手にとって、特定の主体者なのである。

これまで観察してきた例文からも伺えるように、「数量詞+名詞(N)」が主語となっている場合が多く見られる。主述構造文において、主語は一般的に「数量詞+N」の形態は取らないと言われているが、その理由は、「数量詞+N」は不特定の物を指し主語にはなれないという考えによる。しかし、主語が「数量詞+N」という形態を取る例はかなりある⁽³⁾。「数量詞+N」が主語を構成するには、二つの条件が必要である。第1の条件は、話し手がその場面を見ている場合である。この場合は、場面を見ているが故に特定できる主語となる。第2の条件は、新しい情報として提示される場合である。

次の例文は、小学校の低学年用の教科書で、挿絵が挿入されている。聞き手はその絵を見ながら文章を読むことになる。目の前に情景があるため、下線部の「一粒种子」は特定でき、主語として使われている。しかし、「一粒种子」が主語として使われるのは、初出つまり新しい情報の時のみであり、その後は、指示代名詞の「他」または数量詞が省略された一般名詞「种子」が使われている。

(3-13) 一粒种子睡在泥土里，他醒过来，觉得很暖和，就把身子挺一挺。

他有点儿渴，喝了一口水，觉得很舒服，又把身子挺一挺。春风轻轻地

吹着。种子问蚯蚓：“外面是什么声音？” (小4-21)

次の例文も小学生低学年用の教科書で挿絵が挿入されている。文章の開始の部分で、「一只青蛙」「一只乌龟」と使われているが、その後は数量詞が省略され、「青蛙」のみで使われている。

(3-14) 一只青蛙坐在井底下，说天只有井口那么大。一只乌龟爬到井沿上，对着青蛙大声说：“你弄错了。天无边无际，大得很呢！不信，你跳出井口来看一看吧！”青蛙说：“别大说话了！天不过井口那么大，我天天坐在井里一抬头就看见天，还会搞错吗？” (小5-41)

「数量詞+N」主語は、眼前のものを指し示しているが故に、不特定ではなくて、特定の物を指しているのである。「数量詞+N」主語も場面照応性を有していると考えられる。そして、上の例文(3-13)(3-14)からも観察できるように、述語には一回限りの動詞が使われているのである。このような特徴を有する「数量詞+N」主語は、文頭の介詞構造「在+D」と共起する場合が多い。

次の例文に見られるように、これらの文章は場面描写力が特に強く、聞き手は自分の眼前で起こっている情景のように感じられる。

(3-7”) 在一只鬃毛长得最漂亮的雄狮旁，好几只幼狮高采烈地打滚，玩闹着。

(3-11”) 在无边的暗夜里，一簇簇的篝火烧起来了。

次の例文では、「数量詞+N」主語と「在+D」の場面照応性が巧みに使われており、話し手は「贝多芬(ベートーベン)」の視点に立ち描写を行っており、聞き手も「贝多芬」の視点で場面を見ているような感覚になる。

(3-4) 贝多芬走进茅屋，琴声忽然停了，屋子里有人在谈话。一个姑娘说：“这首曲子多难啊！我只听别人弹过几遍，总是记不住该怎样弹；要是能听一听贝多芬自己是怎样弹的，那有多好啊！”一个男的说：“是啊，可是音乐会的入场券太贵了，咱们又太穷。”姑娘说：“哥哥，你别难过，我不过随便说说罢了。”

贝多芬听到这里，就推开门，轻轻地走了进去，茅屋里点着一只蜡烛。在微弱的灯光下，男的正在做皮鞋。窗前有架旧钢琴，前面坐着个十六七岁的姑娘，脸很清秀，可是眼睛瞎了。（小10-9）

4. 2種類の文型の特徴について

本章では2種類の文型の特徴について整理しておく。

4.1 文型1の特徴について

4.1.1 「在＋D」の意味、および述語と主語の特徴

次の例文は、本稿の「はじめに」で挙げた文型1の代表的な例である。

在故乡非洲，河马几乎日夜泡在河里，靠吃芦苇，水草过活。（小7-31）

文型1を《「在＋D」1＋S1＋V1》で表し、特徴を整理しておく。

- ① 「在＋D」1は、場所を限定・制限し、場所の特定・不特定に関係なく使われる。

場所は、単なる場所のみならず、空間や抽象的な場所にも使われる。

- ② V1は、日常的動作・状態あるいは判断詞「是」・助動詞・可能補語などが使われ、主語の状態・性質について説明や判断を加える。

- ③ S1は、状態や性質の説明あるいは判断をおこなう対象である。

4.1.2 対比の用法

以上のような特徴を有する文型1は、ある場所（範囲）を限定し、その場所では、主語はどのような状態・性質であるのかを説明したり、判断を加えたりする場合に使用され、対比の文としても使われる。対比には、明確な対比と隠れた対比がある。明確な対比とは次の作例[4-1]のように、「在＋D」が2カ所以上で、対比され使われている場合を指し、隠れた対比とは、次の作例[4-2]のように、対比される場所が「在＋D」で明確に提示されていない場合を指す。

[4-1] 在家里，他是一个小皇帝。但是，在外边，他经常给别人帮助。

[4-2] 在家里，他是一个小皇帝。但是他在学校的时候，经常给别人帮助。

4.1.3 接続機能

文型1は、「在＋D」1が特定の場所を指す場合は、文章接続にも使用される。

[4-3] 暑假的时候，他去了北京的老爷家。在那儿，他真是一个小皇帝。

4.2 文型2の特徴について

4.2.1 「在＋D」の意味，および述語と主語の特徴

次の例文は，本稿の「はじめに」で挙げた文型2の代表的な例である。

远远望去，在一座雄伟峻峭的半山腰里，游击队员们正穿过高大的树林
和茂密的青纱帐，去和敌人斗争 (初中1-89)

文型2を《[在＋D] 2＋S 2＋V 2》で表し，特徴を整理しておく。

- ① 「在＋D」2は，特定の場所を指し，眼前の場所・場面・空間を提示することができる。
- ② V 2は，一回限りの動詞，または変化を表す述語が使われる。日常的動作・状態・性質を表す述語は使われない。
- ③ S 2は，動作或いは変化の主体であり，話し手にとって特定できるものである。

文型2は，特定の場所（眼前の場所を含む）を提示し，その場所において主体者が何をしたのか（何をしているのか），あるいは主体者がどのように変化したのかなどその動作・変化について述べる場合に使われる。

4.2.2 場面照応機能

文型2は，場面照応性を有し，眼前の情景描写に使われ，話し手の視点と関係する。次の例文（4-1）は，話し手の眼前の情景が描写されたもので，聞き手にとっても，眼前の情景として臨場感のある表現として理解される。

(4-1) 在一只鬃毛长得最漂亮的雄狮旁，好几只幼狮高采烈地打滚，玩闹着。

また、文脈との関係で新たな場所が提示された場合には、焦点が絞られているような作用が働く場合がある。次の例文（4-2）では、前文で「浮彫」に関する説明がある。「在＋D」を使いその一部に焦点を絞り、「在一座雄伟峻峭的半山腰里」と使われている。

- （4-2） 紧接着的一幅是“抗日敌后游击战”，浮彫上显现出抗日战争时期太行山区敌后游击战的场面。远远望去，在一座雄伟峻峭的半山腰里，游击队员们正穿过高大的树林和茂密的青纱帐，去和敌人斗争。

（初中1-89）

4. 2. 3 文章接続機能

文型2は、文章接続にも使われるが、上に述べた焦点を絞るような作用が働くとは限らない。次の例文（4-3）は、文章接続の例であるが、新たな場所の提示がないが故に、単なる接続にとどまっている。

- （4-3） 放暑假了，妈妈带我来到姥姥家。在这里，我第一次看到了欢蹦乱跳的小青蛙。心里不由得暗想：要是能捉到一只玩玩，那该多意思阿！

（小10-73）

おわりに

文型1の機能・用法については、第1章で述べた対比・限定機能と第2章で述べた文章接続機能の2種類だと考えるが、文型2の機能・用法は多様である。本稿では、接続機能を文章接続型と場面照応型に分け分析を試みた。場面照応型では、新たな場所と焦点という現象を指摘したが本稿では指摘することに留めた。文型2の全体像とその本質の把握のためには、この問題は研究が深められる必要があるし、また、その他の機能・用法についての研究も必要とされる。本稿の目的は、対比・限定機能と接続機能の分析に絞り、文型《「在＋D」＋主語＋述語》には2種類の文型が存在すること、そしてこの2種類の文型の特徴を一定程度明らかにすることである。これらの諸問題については、別稿に譲

りたい。

注(1) 樋山健介(1987)では、対比、眼前の描写、接続について述べられているが、2種類の文型については言及されていない。

(2) 刘月华 潘文娛 故华(1983)では範囲としている。Dは単純に場所のみならず、空間や抽象的な範囲を指す場合にも使われるからだと考えられる。本稿では、本来の語義「在+場所」を使った方が文型1と文型2の相違を際立たせやすいと考え「場所」とした。

(3) 「数量詞+N」が主語となることについては、范继淹(1986-2) 271ページで指摘されているが、主語となる条件については触れていない。

引用文の略称と出典

(小1～11) 『全日制小学课文语文 第一册～第十一册(试用本)』

浙江, 上海, 北京, 天津四省市小学语文教材联合编写组编
北京市新华书店 1984年

(初1～5) 『初级中学课本语文 第一册～第五册』

人民教育出版社中学语文编辑室编 北京新华书店 1984年

(电1～13) 『中国电影剧本选集(一)～(十三)』 中国电影出版社 1986年

参考文献

朱德熙(1981)「在黑板上写字及其相关句式」『语言教学与研究1981年第1期』

樋山健介(1987)「主語の前に位置する介詞構造“在+D”——語用論から見た分類」『教学通讯』(社)
中国研究所中国研修学校

樋山健介(1991)「句首の介詞結構“在”の存現句」『第三届国际汉语教学讨论会论文选』第三届国际教学讨论会会务工作委员会編 北京語言学院出版社

范继淹(1986-1)「论介词短语“在+处所”」『范继淹语言学论文集』语言出版社

范继淹(1986-2)「无定NP主语句」『范继淹语言学论文集』语言出版社

范方莲(1963)「存在句」『中国语文』1963

北京大学 1955 级 1957 级语言班(1982)『现代汉语虚词例释』商务印书馆

房玉清(1992)『实用汉语语法』北京语言文化大学出版社

刘月华 潘文娛 故韦华(1983)『实用现代汉语语法』外语教学与研究出版社

吕叔相(1980)『现代汉语八百词』商务印书馆